

【議案第88号】

令和2年度浜田市一般会計補正予算（第7号）

議案第88号 令和2年度一般会計補正予算第7号の賛成討論を行います。今回の補正予算は、追加の新型コロナウイルス感染症対策の事業や、人事院勧告などの人件費、不用額の調整など、総額2億2,637万2,000円の補正額です。歳入においては、新型コロナウイルス感染症対応地方創生交付金1,257万1,000円。ふるさと応援基金繰入金925万円などが組み込まれ、的確に対応されているところです。また、BB大鍋フェスティバル助成事業285万円が事業中止によりマイナス補正されています。新型コロナウイルスの影響での事業中止は、これまでに13事業、おおよそ3,300万円に及ぶことの説明を受けました。有害鳥獣捕獲事業は、イノシシの捕獲頭数が1,860頭に増加したことに伴う調整、829万9,000円が計上されています。

また、今回の補正予算には、浜田市江津市旧有福村有財産共同管理組合負担金348万円が含まれており、新聞報道にも写真入りで大きく取り上げられましたし、多くの議員から質疑がなされ、問題点が指摘されました。新型コロナウイルス感染症の影響によって、温泉施設の利用収入が大幅に減少したとはいえ、抜本的な改革がなされる必要があるのではないのでしょうか。改革がなされないなら、これから毎年浜田市への追加の赤字補填が請求され続けることが予想され、浜田市民の辛抱も限界に達すると思われまます。

これまでも、老朽化したボイラーの修理や駐車場の整備など資金需要は発生していましたが、今回のようにキャッシュフローに行き詰まることは記憶にありません。まず、江津市にある施設であり、経営は江津市が担っている以上、浜田市ができることは極めて限りがあると考えます。

長きにわたって道幅を拡幅せず、大型観光バスが入れる道路さえ整備できなかったのは、一義的に江津市の責任でありましょうし、有福温泉のまちづくりやブランド化は、新しい顧客を創造することはできず、古き日本の叙情を懐かしむ多くの観光客を惹きつけるまでには至りませんでした。その結果、たくさんの温泉旅館が廃業してしまったのは、皆さんご承知のとおりであります。

今、温泉街を歩けば、水産浜田隆盛のころの、有福温泉の良質な源泉や山あいの風情が人々を惹きつけた、その奥座敷として栄えた面影はなく、鍵が閉まった旅館や土産物店の壁や窓ガラスに下駄の音がカランコロンとむなしくコダマするのみです。通りはきれいに掃除され、遊歩道の脇に季節の花々が美しく咲いていますが、逆にかつての栄華がよみがえり、哀れと郷愁を誘います。

温泉施設の経営は、原爆療養施設が廃業になり、源泉の使用料がなくなってから、逼迫

令和2年12月定例会議 澁谷 幹雄議員 賛成討論

を続けたのではありませんか。以後、改革の時間は、たっぷりとまではいかなくとも、十分にあったはずであります。

繰り返しますが、温泉施設は江津市に存在している以上、浜田市が経営改善に関わることは、限界があると考えます。今回については、コロナウイルス禍の影響という災難による赤字だったとしても、今後は過去に結んだ負担割合に基づいての、浜田市が58%の支出を続けることは、市民の理解を得られないのではないのでしょうか。二度とこのようなことがないように、抜本的な改革が必要であり、浜田市が赤字の半分以上を補填するという、都合の良い支援者の立場から脱却すべきことを強く申し添えて、以上、賛成討論とするものです。